



レスリングアジア選手権 荒道選手(光星)「銅」

敗者復活で圧勝 本社支社で喜びを語る

八戸

八戸学院光星高校レスリング部の荒道豊樹選手(1年)が、7月17〜24日にタイ・バンコクで開催されたアジアカデット(16、17歳)選手権のフリースタイル46キログラム級で銅メダルを獲得した。7月下旬、報告のため東奥日報社八戸支社を訪ね、熱戦の模様と喜びを語った。

(若松清巳)

荒道選手はJOCジュニアアオリンピックカップ(4月・横浜市)の同級で2位となり、アジアカデット選手権の出場権を獲得。「外国遠征も外国人選手との試合も初めて」(荒道選手)という同選手権の1回戦は緊張で動きが鈍り、カザフスタンの選手に惜敗した。敗者復活戦に回った荒道

選手。「初戦敗退は悔しかった。敗者復活戦では負けないと気持ちを高めた」といい、モンゴルとキルギスタンの選手を破って2戦全勝。初戦の相手が決勝に進んだため、大会規定で銅メダルが確定した。同部の金淵清文監督は「敗者戦はまさに圧勝だった」という。

粘り強い試合展開が持ち味の荒道選手。「いつもはリードしていると残り30秒は守りに入る」というが、初の世界戦で考えさせられることが多かった。「力で圧倒する外国人選手は、チャンスで返しにかかり一発逆転を狙う。最後まで攻め抜く姿勢が必要だ」

小学1年でレスリングを始めた荒道選手。中学は柔道部だったが、これも「経験をレスリングに生かすため」。高校は迷わず強豪の八学光星を選んだという。JOCカップは優勝者が世

銅メダル獲得を喜ぶ荒道選手(左)と金淵監督